国際経験が役に立つことはわかっていながらも、費用の負担や手段等で足踏みをしてしまうケースは少なくありません。また、そもそも海外に行って何をするの？日本で働いたことしかないから意味がないのでは？そして何と言っても社会人にとって、仕事を辞めてまでは行けないと思っている方がほとんどではないでしょうか。

今回は会社を辞めずに、従業員として社員を海外へ派遣された
２つのケースをご紹介します。

CASE 2

朝永エンジニアリング（株） 朝永剛弘さん（30）の場合…

派遣国：トルコ（西アジア）　利用制度：HIDA『国際即戦力育成インターンシップ』
期　間：平成26年10月から５カ月間　派遣内容：日本向け製品の販路拡大

きっかけは？

日本人だけで生きていくのは嫌だなと思っていました。大学を卒業して就職し、その後ワーキングホリデーを利用し、ニュージーランドに渡航しました。またいつかは海外に行って経験を積みたいと思う中、社長よりこの制度を利用した海外展開の足掛かりをしてみてはとの提案を頂いたのがきっかけです。

現地受入企業 Egcdeniz Textile 社長 他と

何をしたの？

無印良品（株）の商品等オーガニックコットンを用いた衣類の製造販売企業で、日本向け製品の販路拡大のための調査を目的に派遣されました。取引先の訪問や海外展開を見据えた現地調査、外国の人と仕事をする経験を肌で感じました。

印象的なできごと

計画や予定が、思い通り行かないのが当たり前でした。提出した資料を見てもらえない間は、積極的に現地従業員と交流を図り、あらゆる業務に自ら取り組んでいました。トルコの方は日本人に対してとても友好的にもかかわらず日本の文化や商品についてはあまり馴染みがなく、むしろ韓国の音楽や映画などがよく知られていることは驚きでした。

制度のメリット

渡航や滞在にかかる費用面の補てんはもちろん、5か月という短期間で、海外マーケットに触れることができる点や現地企業だけでなく、JETROやHIDAのスタッフや同じプログラムで派遣をされた方々との人脈も海外展開を見据えるうえで大きなメリットではないでしょうか。

イズミール市街地

経験を生かして…

市場調査やネットワークづくりを目的としていましたので、現地の商工会議所へも足を運びました。今後商談会や新規ビジネスの検討など幅広い視野を持って業務に取り組んでいきたいと思います。

国際即戦力育成インターンシップ事業とは？

開発途上国の企業や団体等でインターンシップ（就労体験）をすることができます。
通常、インターンシップは学生が就業体験を行うことを意味しますが、本事業では事業目的に合わせ、社会人（日本の企業や団体に所属する人）をメインにインターンとして派遣しています。
詳しくは・・・HIDA（海外産業人材育成協会）
▶http://intern.hidajapan.or.jp/

※この事業は経済産業省「貿易投資促進事業」の一環として、HIDA及びJETROが同省より委託を受けて実施しているものです。

概要

受入機関	アジアを中心とした開発途上国(OECD/DACリスト掲載国)の政府関係機関、業界団体、現地民間企業等
派遣期間	9月以降の２～6か月 （国内研修5日間、現地語研修10日間を７～８月に実施）
インターンへの主な経費支援	現地滞在費として一泊平均3,500円を支給。 渡航旅費(往復国際航空券)、渡航関連費支給等。 ※ただし、大企業所属のインターンに関しては、現地滞在及び渡航旅費は支給しない。